

# 徳島大学での 楽しい研究室生活



留学生  
滞在記

大学院創成科学研究科 理工学専攻 2年

林 虹君

(リン コウくん) [台湾]



研究室の友人(筆者:後列左側)

徳島大学大学院創成科学研究科理工学専攻の林虹君と申します。ダブルデイグリー・プログラム制度で入学し、台湾では南臺科技大學に所属しています。徳島大学に来ることになったきっかけは、台湾の先輩が徳島大学を紹介してくれたことです。2019年に徳島大学のサマースクールに参加し、徳島大学で勉強したいと思いましたが、2022年5月から徳島大学で研究しています。

徳島大学へ来たとき、研究室の皆さんはとても親切にしてくれました。今でも研究のサポートをしてくれ、研究以外にも楽しく交流しています。所属している応用化学システムコースで開催されたソフトボールやボーリング大会に研究室のメンバーと一緒に参加したこともあります。ソフト

ボールは人生で初めての体験でした。大会の前にみんなと一緒に練習して、とても楽しかったです。このソフトボール大会では準優勝することができました。

徳島大学へ留学する前、徳島の文化について調べました。一番おもしろいと思ったのは阿波踊りです。それで、8月の阿波踊りに迷わず参加することにしました。残念ながら、膝をけがしてしまい踊りに参加できなかったので、締太鼓を演奏しました。実際の阿波踊りでは、道の両側に多くの観客がいて、テレビ局も取材に来ていました。徳島の阿波踊りはとても盛大で賑やかなイベントでした。

徳島大学に来てから、サマースクールやスプリングスクールに参加しました。いろいろな国の人と友だちになり、英語でコミュニ

ケーションしたりプレゼンテーションを練習したりする機会がありました。また、チームワークを学んだり、徳島の有名な観光スポットに行ったりして、印象に残る経験をすることができました。

初めて徳島大学で授業を受けたとき、専門用語が多く、難しく感じました。しかし、私が理解できていないときは、先生が丁寧に英語で説明してくださいました。授業を受けるにつれて、次第に授業の内容についていけるようになりました。もっと日本語のリスニング力を高めたいと思っています。

台湾では高分子の研究をしていましたが、徳島大学では無機材料について研究しています。研究の過程で分からないことがあるときに先生に質問すると、詳しく丁寧に答えてくださいました。無機材料は高分子ほど専門的ではありませんが、それがきっかけで、だんだん興味を持つようになりました。私の指導教員である森賀先生と村井先生に感謝しています。徳島大学での生活でつらく感じる時もあり、先生方や友達が励ましてくださるので、安心して前に進むことができます。

海外に住むようになると、いろ

いろなことを自分自身で対処し解決しなければなりません。私は徳島大学で今まで遭遇しなかった多くの問題にぶつかり解決してきました。それで、以前より自立した人になったと感じています。大学院を修了した後、経験を積むために日本で働きたいと考えています。将来は化学工学に関係する企業の研究開発者として働きたいです。そして、挑戦を恐れず会社に貢献できるようなエンジニアになりたいと思っています。



化応連阿波踊り(筆者:1列目左から2番目) 応用化学システムコースC-1研究室(筆者:1列目左端)

